

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科／現代の国語】

1. 対象 1年生

授業に積極的に取り組むことのできるクラスである。グループワークなどの学習活動では活発な対話が見受けられ、他人の意見に耳を傾けることもできる。また、新たな知識や学びに対する関心が高く、主体的に学びを深めようとする姿勢がある。対して、生徒の学力にはかなりばらつきがあり、授業の焦点の絞り方に悩むことも少なくない。学力的に秀でている生徒が、他の生徒とともに教え合えるような雰囲気づくりを心掛ける必要がある。1学期には「読むこと」と「書くこと」の単元を履修し、「話すこと・聞くこと」の単元は今回初めて扱う。クラスメイトの前に出て話をするに関して、苦手意識を持っている生徒は少なくないと予想される。生徒の様子を観察しつつ、臨機応変に授業を展開したい。

2. 単元名 「 伝わるように話す 」 （全8時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	・話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、聞き手との距離感などに配慮した表現や言葉遣いについて理解できる。 〔知識及び技能〕（1）イ
②思考・判断・表現	・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。〔思考力・判断力・表現力〕イ
③主体的に学習に取り組む態度	・話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、聞き手との距離感などに配慮した表現や言葉遣いについて理解しようとしている。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫しようとしている。

4. 本時の目標

スピーチに取り入れられている工夫を見つける。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い
・「伝わりやすい話し方」の特徴やスピーチの工夫を学び、自身のスピーチで実践する。

考えるための材料	
材料1	材料2
・授業プリント1『校内放送を修正しよう』 ・校内放送・情報伝達例	・授業プリント2『他人のスピーチから学ぶ』 ・動画視聴用 iPad
材料3	材料4
・授業プリント3『スピーチ準備をしよう①・②』	・授業プリント4-1『相互評価シート』 ・授業プリント4-2『省察シート』
想定される活動	
材料1	材料2
・グループで、校内放送や情報伝達のメモを取る。 ・校内放送や情報伝達が聞き取りにくい理由を考える。 ・「伝わりやすい話し方」の条件を考える。	・エキスパートで他人のスピーチを視聴する。 ・視聴動画の中で工夫されていた箇所をピックアップする。 ・自分のスピーチに生かせそうな工夫を見つけ、グループで共有する。
材料3	材料4
・材料1で学んだ条件や特徴を参考に、自身のスピーチ原稿を作成する。 ・材料2の内容を参考に、材料1をもとに作ったスピーチ原稿を書き直す。	・工夫したことを意識してスピーチする。 ・スピーチを聞いた聞き手の生徒は、評価表を用いて評価をつける。 ・他人のスピーチと比較したり、相互評価の結果を

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- 校内放送を聞いて、グループで聞きづらさの要因を探る。
 - 「どうして聞きにくいんだろう」
 - 「時系列がめちゃくちゃだ！」
 - 「一文が長すぎると聞きにくい……」
 - 「同音異義語や難しい言葉は、瞬時に把握するのが難しい……」
 - 「知らない情報は省くべきだ！」
- そこから考え得る、「伝わりやすい話し方の条件」をグループで考える。
 - 「「聞きにくい原因」を逆に考えれば、「聞きやすい話し方の条件」になるんじゃないかな」
- ここまでの活動を参考に、スピーチ原稿を書く。
 - 「テーマに沿った形で、時間いっぱい話せるように……作るの大変だなあ」
 - 「聞きにくい表現は入れないようにしないと」
 - 「聞きやすい話し方の条件を参考に作ろう」
- 他者のスピーチ動画を見て、聞いて、どんな工夫があったかエキスパートでピックアップしてみる。
 - 「工夫なんて言われても分からない。普通に喋っているようにしか感じない」
 - 「話しかけたり、問いかけたりしている」
 - 「表情を豊かに使っている」
 - 「間の取り方とか、話すスピードとかを変えている」
- ピックアップした工夫を参考に、自分のスピーチ原稿を書き直す。
 - 「抑揚や間の取り方が分かるように、記号を入れてみよう」
 - 「元原稿のままでも十分じゃないか？ 変える必要がない気がする」
 - 「話し初めを、聞いている人への問いかけにしてみようかな」
- 自分で作成したスピーチの準備や練習をする。（個人作業）
 - 「間を取ると時間内に収まらないな。どこか削ろうかな」
 - 「友達に聞きづらいついて言われたな」
 - 「人前で話すのは恥ずかしいなあ」
 - 「練習めんどくさいな。適当にやっつて、本番もそこそこでいいかな」
- 実際にクラスでスピーチをする。
 - 「〇〇さんの発表、上手だな」
 - 「評価をつけるとしたら、基準に照らし合わせるとBかなあ」
- 相互評価の結果を参考に、自分のスピーチを振り返る。
 - 「自分で思っていたよりも、みんなからの評価が高い！ 嬉しいな」
 - 「結構厳しい評価が書かれていて落ち込むな」
 - 「〇〇さんのスピーチは上手だったな。私とはどこが違ったのかな」
 - 「振り返りって言われてもなあ。みんなB評価はつけてくれてるし、これくらい取れば十分だわ」
 - 「最低限意識しようと思っていた、これができたから、自己評価は十分！」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- スピーチは嫌だったけど、少しだけ上手にできたかもしれない。
- 思ったよりみんなからの評価が良くて嬉しかった。
- 恥ずかしくて本当に嫌だった。早く終わってほしかった。
 - 「③主体的に学習に取り組む態度」
- 条件や特徴を踏まえれば、誰でもそれなりにスピーチできるんだなあ。
- 今までただ喋るだけだったけど、今回は工夫できた。
- 条件だけだとつまらないスピーチだったけど、工夫を入れたら変わった！
 - 「②思考・判断・表現」
- 今回の授業では出て来てないけど、こんな工夫もあったんじゃないかな。
- 条件が勉強できて良かった。
 - 「①知識・技能」